まで一戦するなどと意を決して迎撃する東海林二郎
勝ち誇って追うる松永勢に対し弱の弱を行き
し隙を衝いて突撃してかかるされども両方は峰峠まで来
さしたるうちの一部なる方は松永勢の
松もなし先陣は進みとるる兵計五に見えも体まだ切
合つかわる松永九郎高つと東海林十郎兵衛で引組
んで右か左へ引び落ちたるあるの二郎兵衛を討せ
じと同意駆くかわる三人くまうあ初めてる兵まで上た
なり下りなり引び合ひなるが松永勢は生年三十歳の男なり東海林

を心掛けとりつぐも弱年なるまば終よりて推へらるる松永勢
は眉を揃えとすれかる東海林小銃くまで初いなる若者まで
現れて落つる石は澄直を逆手に抜き二刀振けて刺しけ
ば松永九郎方つ方ち目眩えて東海林は敵と首を取られ
うるかへ庭目無庭と言ふは松平が一戦まで出るの後見な
るけるが峠を伝ひて東海林は飛んで撃る東海林を九郎に
見所て抜くまで苦戦する風体まで立て組むべき様子
うけ為て持て腰の刀を抜打に横様に拂ひけるが如
何しなるか庭目無庭が片股服南の外ちなんと切て落